

体罰を防ぐチームづくりを目指して

福山平成大で「リーダーズ研修」

スポーツ指導の現場から体罰や暴力を根絶しようとして、福山平成大学健康スポーツ科学科（石橋勇学科長は、学内の10の運動部のリーダーや地域のスポーツ指導者、教育関係者を対象に、全5回の公開講座「リーダーズ研修」を開催（府中市教委後援）した。

昨年9月から毎月1回特別講師を招き、スポーツの心理面や教育面、倫理面などについて学び、各部活に持ち帰って、体罰のないチームづくりに取り組んだ事を、1月26

日の最終回で発表した。

「自分たちの世代にも体罰容認派がいる。過去に自分が体罰を受けてきた人に多い（硬式テニス部）。「武道の場合は厳しい稽古と体罰の区別がつきにくい」（剣道部）は

「飛び込み競技は危険なので指導者への信頼がなければとても飛び込めない。体罰や暴力もない」（水泳部）などの意見や

現状を語り、研修の成果として「ミーティングを増やした」「力で相手を抑えるのではなく、言葉による指導を心掛けるようになった」

「スポーツする目的を再確認した」「リーダー像や体罰について真剣に語り合った」と報告した。

最後に講座担当の武田守弘教授が、他大学の取組みや日本オリンピック委員会（JOC）の「暴力行為根絶宣言」を紹介し、「暴力の連鎖を断ち切るには、

体罰は絶対いけないという認識をまず持つことが大切。体罰について考えたことを地域に出て活かして欲しい」と総括した。剣道部の女子主将、藤村練美さん（3年）は「他の部活の取組みを知ることができてよかった。自分が指導者になった時どうすればいいか勉強になった」と話していた。

体罰を防ぐチームの育成を目指すために

- ・指導者に体罰をしてはいけないという自覚を持たせる。
- ・指導者に対しての体罰に関する講習会を行う。
-指導方法の改善を行う。
- ・選手と指導者の両方向でのコミュニケーションを促かく行う。
- ・アンガーマネジメントを行う。
- ・指導者がいる以上は体罰がなくなることはない。
-指導者はまずして選手のみで練習を行う環境を作る。

